

地域で課題解決型まちづくりにチャレンジしてみませんか!!

平成30年度 地域の課題解決モデル事業
モデル地区

今井小学校区コミュニティ推進協議会



- 犬山市では、地域の多様な人材が地域のことについて語り合う中で、地域の課題を整理し、行動していくための仕組みとして、「コミュニティ推進協議会」の形成を進めています。
- 地縁組織(コミュニティ推進協議会、町内会等)の運営を、**交流・ふれあい事業中心の運営から、課題解決型事業中心の運営へと転換していきたいと考えています。**



そもそも、今なぜ『課題解決型まちづくり』に取り組むの？



今なぜ『課題解決型まちづくり』に取り組む必要があるのか？

- 最近、全国的には、地域の良いところに磨きを掛け、また気になるところを改善していくことで、自分たちが暮らす地域を自らの力で住みやすくしていこうとする取組がみられます。
- 従来は、公共サービスは行政が担うことが当たり前とされてきました。しかし、社会が多様化するなか、また財政事情が厳しさを増すにつれて、行政がすべての公共サービスを担うことが難しくなっています。

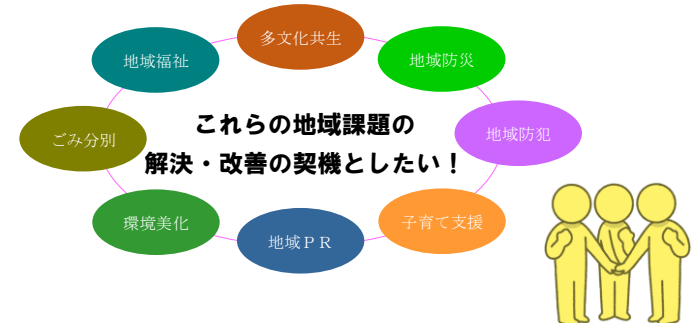


今なぜ『課題解決型まちづくり』に取り組む必要があるのか？

- 地域の住民と行政と一緒に知恵を出し、汗をかくことで、**地域の実情にあったきめ細やかな地域サービスを展開することが必要となっています。**
- そこで、市では、こうした地域が自ら課題解決に取り組む、言わば「課題解決型まちづくり」を推進し、その普及を図っていきたく考えています。

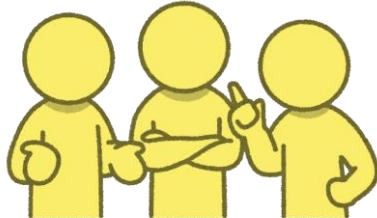


地域が抱える課題（想定・イメージ）



『わがまちが直面する地域課題』とは？

『わがまちが直面する地域課題』には、
どのようなことがありますか？
我が事として考えてみてください。



まずは地域の力を高めるために、
「課題解決の学び」を積み重ねましょう！

- 地域の住民が主体的に行動し、地域の課題解決に取り組むには、**まだまだ経験が足りません。ひとつひとつ経験を積み重ねていくことが必要です。**
- 地域固有の課題の発見・抽出の方法、課題解決のための企画(デザイン)、関係者による合意形成の方法などを経験の中から学び、コミュニティの力を高めていく必要があります。

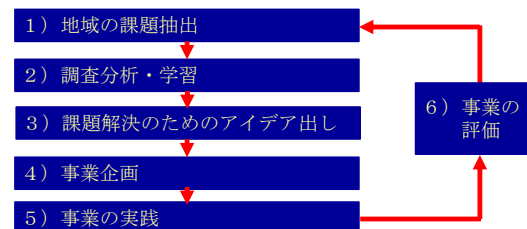


協働のまちづくりの基本概念

- 市民と行政のパートナーシップ
- 多くの市民が参加する仕組み
多様な市民が主体的に(我が事として)行動
市民や団体の有機的なネットワーク
- 意志決定のプロセス(手順)
課題解決事業を企画・実施するための基本プロセス

課題解決事業を企画・実施するための基本プロセス

まずは学習から、そして学習を繰り返す。
『とにかくやってみる』から始める



モデル地区 今井小学校区

- 今井小学校区は、入鹿池の北に注ぎ込む成沢川沿いにあり、周囲を里山に囲まれた自然豊かな農村部です。
- 人口681人、世帯数210世帯、高齢化率37.4%で、少子高齢化が進んでいます。
- 平成25年9月にコミュニティ推進協議会が発足
 - ・ 今井入鹿の荘様の里プロジェクト
 - ・ 入鹿池堤防、県道の草刈
 - ・ ホタル茶会 ・ 納涼盆踊り
 - ・ 今井小学校ふれあい運動会
 - ・ 子ども神輿、キャンドルナイトなどの活動



モデル事業の紹介 検討テーマ

平成30年度 今井小学校区での取組

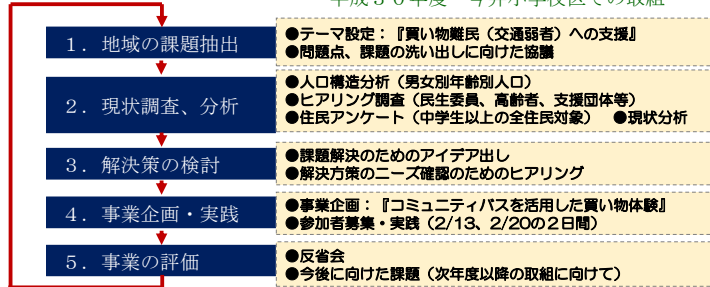
買い物や通院などの
移動に苦勞する『**交通弱者**』
の問題に取り組みました。

そして、お試し事業として
『**バス乗車体験ツアー**』
を開催しました。



課題解決型まちづくり 実践のサイクル

平成30年度 今井小学校区での取組



モデル事業の紹介 1. 地域の課題抽出

●テーマ設定／『買い物難民（交通弱者）への支援』

● 買い物難民（交通弱者）問題に挑戦

今井地区では、高齢化の進展により、買い物や通院などの移動に苦勞する「交通弱者」の問題について、地域の課題になっていることが心配されていましたが、具体的な調査を行ったことはありませんでした。モデル事業を機会に実態を調べてみたいという会長の意向もあり話し合いを始めました。



モデル事業の紹介 1. 地域の課題抽出

●問題点、課題の洗い出しに向けた協議

● 何に困っているのかが分からない！

最初の協議の段階では、今井地区では、『困っている方の姿を見かけない。』『何に困っているのか。』という意見が大半でした。実態として誰が何に困っているのか、調査をして現状を明らかにすることからはじめることとなりました。

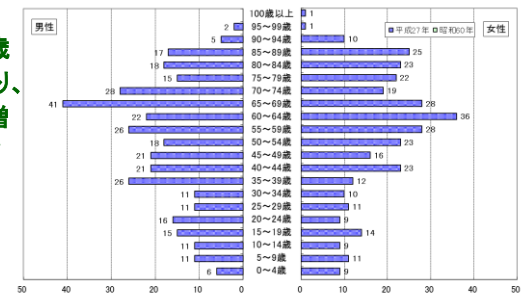


モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

●人口構造分析（男女別年齢別人口）

● 今井地区の人口構造

今井地区の人口は60歳代に大きなピークがあり、今後急速に高齢者が増えていくことがわかっています。



モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

● 実態把握のためのヒアリング、アンケート

● ヒアリング調査（民生委員、高齢者、支援団体等）

〈ヒアリング先〉

- ・高齢者の事情をよく知る地区の民生委員さん
- ・サロンに集まる高齢者
- ・実際に車を使わなくなった高齢者
- ・買い物支援に取り組む市内のNPO



モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

● 実態把握のためのヒアリング、アンケート

● 住民アンケート（中学生以上の全住民対象）

〈アンケート実施〉

- ・調査対象 中学生以上の全住民
- ・調査方法 直接配布・直接回収（町内会の協力を得る）
- ・実施時期 配布10月25日～ 回収〆切11月15日
- ・回収実績 回収世帯181世帯 回収数544票



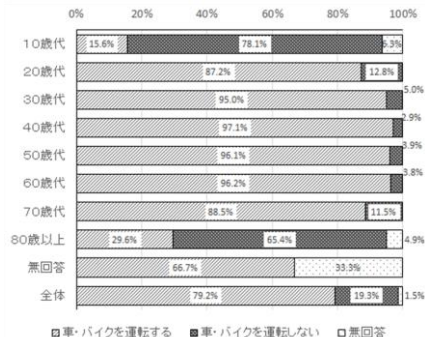
モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

〈アンケート結果〉

Q 運転するか？

80歳以上になると、車・バイクを運転しない人の割合が大きくなる。

70歳代・80歳以上で、「車・バイクを運転しない」と回答した方の実数は64人。

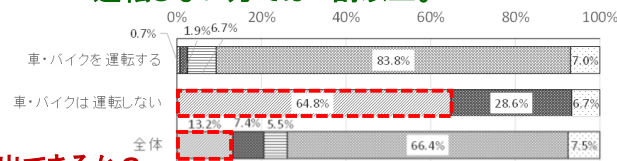


モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

〈アンケート結果〉 「一人では外出できないは: 72人(13.2%)。運転しない方は6割以上。

Q. 一人で外出できるか？

- 一人では外出できない
- 自転車やバスなどで不自由なく外出できる
- なるべくなら自分で運転はしたくない
- 車を運転して一人で外出できる
- 無回答

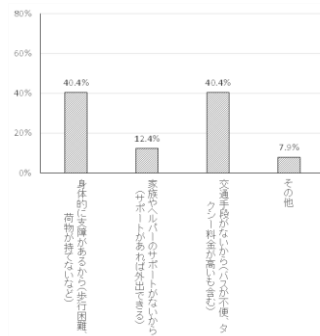


モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

〈アンケート結果〉

Q. 外出できない理由・
運転したくない理由は？

- ・身体的に支障があるから。
- ・交通手段がないから。

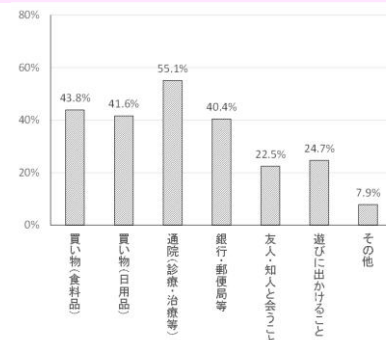


モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

〈アンケート結果〉

Q. 外出できないで
困っていることは？

- ・通院と買い物に不便を感じている。

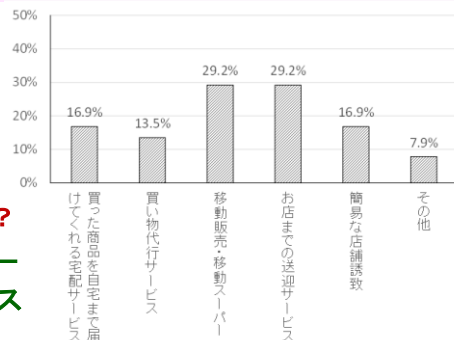


モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

〈アンケート結果〉

Q. 利用したいサービスは？

- ・移動販売・移動スーパー
- ・お店までの送迎サービス



モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

● 実態調査で分かってきたこと

● 現状分析

～車を手放したくても手放せない高齢者～

① 買い物に関しては、自分自身または身内(ごく親しい親族)で対応できている。

- ・同居または近隣在住の家族の支えがある方々がほとんどなので、移動に不自由されている状況が表立ってはいない。



モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

● 実態調査で分かってきたこと

● 現状分析

～車を手放したくても手放せない高齢者～

② 車がないとどこにもいけないので、不安を抱えながらも運転せざるを得ない。

- ・70・80歳代の高齢者は、免許を返納した方が良いと理解していても、生活できなくなることから返納できないのが現状。
- ・30人の高齢者は、「なるべくなら運転したくない」と考えています。



モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

● 実態調査で分かってきたこと

● 現状分析

～車を手放したくても手放せない高齢者～

③ これから高齢者は急増する。

交通弱者問題は今よりは深刻化する可能性が高い。

- ・高齢者ドライバーが増加する。交通安全の不安拡大。
- ・今後は、独身の高齢者の増加が予想される。
- ・頼みごとのできる身内が近くにいない高齢者も増えると予想される。



モデル事業の紹介 2. 現状調査、分析

● 実態調査で分かってきたこと

● 現状分析

～車を手放したくても手放せない高齢者～

④ コミュニティバスの利用度は低い(ダイヤ改正前)

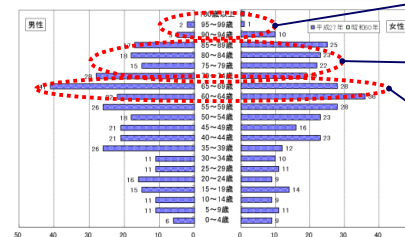
- ・コミュニティバスを普段から利用している方は4人。
- ・バス停までの距離があるなどの理由で利用されていない。



モデル事業の紹介 3. 解決策の検討

● 地域コミュニティとして何が出来るか

● 課題解決のためのアイデア出し



90歳代

・生活のサイクルができあがっている。新たなサービスに関心は低い。

80歳代
70歳代

・自動車が運転できなくなることを不安に思っている方が多い。時間はあるので将来に備える。

60歳代

・身近なところに頼る身内がいない高齢者が増える（交通弱者問題深刻化の恐れ）。



モデル事業の紹介 3. 解決策の検討

● 地域コミュニティとして何ができるか

● 課題解決のためのアイデア出し

現状分析の結果を踏まえ、地域コミュニティとして何ができるかを話し合い、次の2つの案に絞り込みました。

【案1】 コミュニティバスを利用した買い物体験

(将来に備え、バスの乗り方をマスターする。)

【案2】 宅配による買い物講座

(将来に備え、ネット通販をマスターする。)



モデル事業の紹介 3. 解決策の検討

● 本当に需要はあるのか

● 解決策の二重確認のためのヒアリング

上記の2案について、交流サロン参加者にヒアリングを行いました。サロン参加者30人のうち、コミュニティバスを使ってみんなで買い物に出かける取組について、「参加したい」という方が15名を数え、思いの外、需要があることがわかりました。

コミュニティバスの利用度も高めていきたい。



モデル事業の紹介 4. 事業企画・実践

● 今回の取組のねらいを再確認

● 事業企画 / 『コミュニティバスを活用した買い物体験』

〈取組のねらい〉

バスに乗り慣れていない高齢者は、いざ、バスに乗ろうとしても乗り方が分からない。今のうちに乗り方を覚えてもらう。

〈事業の企画〉

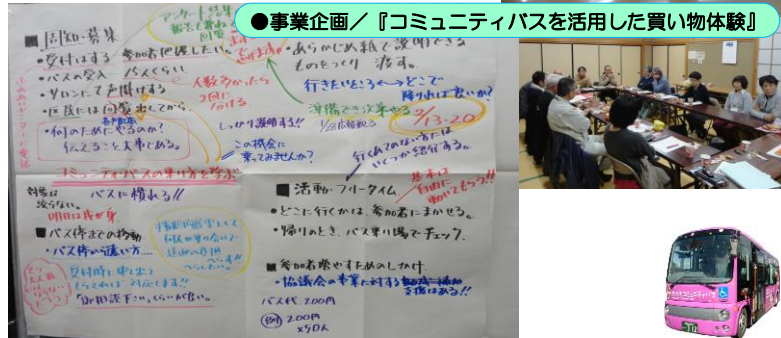
事務局で作成した事業計画のたたき台をベースに企画。

- ①取組の周知・募集、
- ②バス停までの移動サポート、
- ③バス停案内、
- ④体験ツアーの運営管理など。



モデル事業の紹介 4. 事業企画・実践

● 事業企画 / 『コミュニティバスを活用した買い物体験』



モデル事業の紹介 4. 事業企画・実践

● 取組は極めてシンプル. 多数の参加者



2月13日、2月20日の2回に同じ日程です。
参加、ぜひお申し込みください。

項目	時刻
〇開行	11:00
午飯準備会場	11:01
今井福祉センター	11:02
稲葉	11:03
岩戸	11:04
船倉	11:05
船倉大山中米焼酎	11:20
中継	
犬山駅東口	11:41
中継	
フォーラム	約10分
〇帰り	
犬山駅東口	13:55
中継	
船倉大山中米焼酎	14:00
稲葉	14:10
岩戸	14:20
今井福祉センター	14:30
中継	14:34
岩戸	14:35

定員 各回15人
参加費 参加費0円
バス料金は
ご自身で
負担します
当日のバス
「乗車」

取組は極めてシンプルな
ものです。日程を決めて
参加者を募り、みんなで
バスに乗り犬山駅前
で食事・買い物をして、
再び今井まで
戻ってくるという
取組です。



モデル事業の紹介 4. 事業企画・実践

● 取組は極めてシンプル. 多数の参加者

● 参加者募集・実践 (2/13、2/20の2日間)

- ・2月13日と20日の2回開催することとし、バスのサイズから定員15名で募集したところ、両日ともほぼ定員一杯となりました。
- ・参加者の年齢層は70歳代後半から80歳代の高齢者で、今回の取組のターゲットとした方々に参加いただきました。

なお、この取組は城東地区高齢者あんしん相談センターの協力を得て実施しました。



モデル事業の紹介 4. 事業企画・実践



モデル事業の紹介 5. 事業の評価

● 好評を得たバスの乗車体験

● 反省会

- ・取組実施後に参加者から寄せられた声は、概ね好評で、また企画して欲しいというものでした。
- ・今は車に乗っているが、今後のために「バスにも乗らない」と考え始めていた方々が進んで参加されていたこともわかりました。
- ・次は、バスの乗り換えを体験しつつ、花見に出かけようかという話も出ているほどです。



モデル事業の紹介 5. 事業の評価

● 今回の取組を次につなげていくために！

● 今後に向けた課題（次年度以降の取組に向けて）

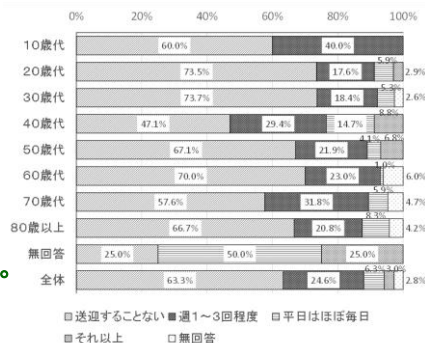
- ① 取組を主導する世話人やリーダーが必要。
- ② 行きたいところに行けるよう、バスの乗り換え、路線を学ぶことが必要
- ③ 中高生の親世代（40歳代）が、子どもの送迎で大きな負担を強いられていることも明らかに。



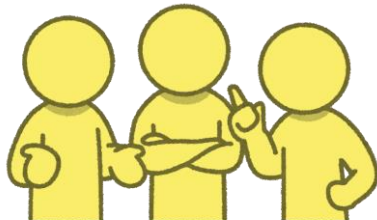
モデル事業の紹介 5. 事業の評価

Q. 送迎の頻度は？

・中高生の親世代（40歳代）とその祖父母世代（70歳代）では、家族を日常的に送迎している者が半数程度になっており、大きな負担に。



あなたの
コミュニティ、町内会でも
できそう？



課題解決型まちづくり
について一緒に考えていきましょう。



手を挙げて
もらえれば、
応援します。

